

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
上野 浩文	うえの ひろふみ	一般社団法人コミュニケーションデザイン機構	<p>環境・社会・経済が統合的に向上する持続可能な社会の形成を目指し、持続可能な開発のための教育(英文名Education for Sustainable Development:ESD)の理念に基づくコミュニケーションを通じて、地域社会を構成する多様な主体間をつなぎ、地域環境課題解決を促す仕組みづくりを行い、持続可能な社会の創造と公益に寄与することを目的とし、その目的に資するため、次の事業を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 持続可能な社会の担い手育成事業</li> <li>2. 持続可能な社会づくりに関係する自治体、NPO等、各主体をつなぐ事業</li> <li>3. 地域環境課題の解決を目的とした住民協働による社会基盤整備事業</li> <li>4. 持続可能な社会づくりを推進する主体等を支援(助言・情報提供)する事業</li> <li>5. 持続可能な社会につながる学術、文化、芸術またはスポーツの振興をはかる事業</li> <li>6. その他、前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業</li> </ol>
江口 健介	えぐち けんすけ	一般社団法人 環境パートナーシップ会議	<p>環境分野の中間支援組織である地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)の運営業務を中心に、環境NPOの基盤強化、企業のCSR、環境パートナーシップ形成等への支援を行う。</p> <p>主として環境省事業である「地域活性化に向けた協働取組の加速化事業」の事務局業務を担当し、環境NPOと自治体、また必要に応じて企業や研究機関、学校、第1次産業などあらゆるステークホルダーとの協働体制構築の支援を全国各地で行ってきた。</p>
大谷 鮎子	おおたに あゆこ	NPO法人 九州キラキラみなとネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球環境とエネルギー問題</li> <li>・みなとまちづくりと女性の参画</li> </ul>
小野田 弘士	おのだ ひろし	早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科	<p>エネルギー・資源循環、モビリティ等を専門分野としており、全国各地でのスマートコミュニティプロジェクトや再生可能エネルギー、未利用エネルギー等に関するプロジェクトの創出を支援している。とりわけ、自らベンチャー企業を創業した経験を生かし、指導・助言のみならず事業化に向けた民間企業のコーディネーター、官民連携スキームの構築支援等を得意としている。具体的には、下記の役割を担うことが可能である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域特性に応じたスマートコミュニティプロジェクト等のコンセプトデザイン</li> <li>・再生可能エネルギー等を活用した自立・分散型エネルギーシステムの構築</li> <li>・地域ニーズに適合したソリューション(エネルギー、モビリティ、ICT等)の構築</li> <li>・企業誘致およびPFI/PPP型事業モデルの設計</li> <li>・モニタリングおよび効果測定 等</li> </ul>
尾山 優子	おやま ゆうこ	一般社団法人環境パートナーシップ会議	<p>地域活性化のためには、地域の各ステークホルダーが協働で解決にあたる必要がある。その協働の場を設け、プロジェクトをまわしているコーディネーターの役割に光をあててモデル化するための情報収集・発信を行っている。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
笠原 秀紀	かさはら ひでのり	いなほコンサルティング	<p>問題解決・企画創造のグランドデザイナーとして、組織、地域の問題解決や人々や地域の夢の実現に取り組んでいます。</p> <p>1)コーディネイト・プロデュース 地域住民、行政、企業、外部専門家など関係者の協働体制を構築。対立を超え、各種技術、仕組みを含む協働体制を創造し、問題解決、企画を実現に近づけます。本手法では、「仕組みの中核・デザインをどのように作るか」が最大要点になるので、テーマはあまり問いません。下記の例の他、震災など災害復興、ヘルスケア、食、農、社会貢献の資金調達など様々なテーマでの問題解決を行っております。</p> <p>【環境分野事例】関係者協働体制の構築による環境汚染地域の問題解決。地域のダイオキシン問題解決(ダイオキシン排出量は、住民、行政、事業者の連携により、焼却炉技術だけでは出せない成果が出せる)。「省エネをすると経営がよくなる(省エネ以上の収益効果)」という新メソッドの民間企業群への導入により、地域の企業群が環境に良い活動と経済的発展を両立させる。</p> <p>2)新規事業開発(地域版、全国版) 企業1社の事業開発ではなく、地域モデル化、全国展開により、地域や広域的な活性化、業界および経済活性化の実現支援。 【事例】フロン回収技術の開発・技術公開・フロン回収事業の立ち上げ。全国の行政システム(冷蔵後、空調回収)と連動し、行政と協働する地元の小規模事業者の新ビジネスモデル構築。業界は事業用設備等からのフロン回収の新規事業成立。派生事業含み、年間数百億円の世界に成長。</p> <p>3)(地域の)問題解決スキルアップ支援 地域の「問題解決ができる力」を向上させていく。前掲1)コーディネイトおよび、2)のスキル・ノウハウの一部を地域に渡していく。問題解決するのは地域であり、地域住民。前掲1)2)よりもこちらの方が地域活性化力は格段に向上する。前掲1)は当方が引き上げた後に衰退するケースもある。</p> <p>4)(地域の)企画・創造力開発支援 地域の未来や願うビジョンを地域の人々で達成できるように、アイデアを出し、夢の実現、問題解決ができる力を向上させていく支援。主役は地域の人々である。当方のノウハウを地域に移していく支援。前掲3)と同様に、地域の力が向上する。</p> <p>5)災害復興&amp;予防BCP/M融合メソッド 阪神大震災以降、現場復興コーディネイト、BCP/M(事業計画マネジメント)支援、および、それらを融合した支援。個別企業や組織のBCP/Mを超えた、地域(連携)BCM構築の支援。</p>
加藤 孝一	かとう こういち	カルネコ株式会社	<p>【理念】『日本の森と水と空気を守る』</p> <p>【しくみ】環境貢献プラットフォームEVI ※90の森林クレジット(県別カバー率81.8%)預託</p> <p>【目的】森と企業と消費者を結び、クレジットの流通促進、環境保護の支援を行う</p> <p>【事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■規格外のりんごをドライフルーツ化。1袋1円が森林支援に!</li> <li>■規格外の椎茸を環境貢献型商品としてブランド化</li> <li>■地域住民による電気代節約活動と地域経済の活性化を支援</li> <li>■国産材・間伐材の利用促進のための販売サイト構築・稼働</li> <li>■全国の森林保護を支援するキャンペーンの企画・実施(4年目)</li> <li>■被災地の森林保護活動を支援する防災キャンペーンの企画・実施(3年間)</li> <li>■お買い物の決済1タッチ1円(SUICA・PASMO)で森林保護支援!</li> <li>■観光と環境貢献の融合=GREEN&amp;CLEANリゾートの推進</li> <li>■CO2排出ゼロの道の駅・日野川の里にちなん(鳥取県日南町)のオープン準備~運営に参加。日本カーボンオフセット大賞農林水産大臣賞受賞を支援。</li> </ul>
加藤 裕之	かとう ひろゆき	東北大学未来科学技術共同研究センター	<p>下水道が有する資源を農業に利用することは、下水道の有するイメージ等からなかなか難しいプロジェクトである。全国的なベストプラクティスを紹介することで、進めるための技術的手順、地域内のコミュニケーションの取り方、マスメディアの活用等を織り交ぜながら、次第に普及展開していく方法を理論化している。この普及理論は、下水道の農業利用にとどまらず、さまざまな地域活性化のためのムード作りにも役立つと考える。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
久保田 学	くぼた まなぶ	公益財団法人北海道環境財団	<p>(1)環境教育・環境保全活動に関するコンサルティング、協働支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「環境」「北海道」を軸に、さまざまな課題解決に向けた事業・活動の設計、リソースの紹介、情報提供等を幅広く行っています。</li> <li>・寄付金と道内の環境保全活動とのマッチング等もお手伝いします。</li> <li>・地域の温暖化対策や環境教育・人材育成等に関する事業協働、政策協働も行います。</li> </ul> <p>(2)環境分野における政策コミュニケーションの企画・実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境政策への市民参加、政策協働の企画、設計、実践をお手伝いします。</li> <li>・政策に関する意見交換、政策提言やパブリックコメントを引き出すワークショップ等、地域と環境政策をつなぐ場づくりを企画、実施しています。</li> </ul> <p>(3)スタディーツアー、フィールドワークショップ等の企画・運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の環境・自然資源や産業・歴史の魅力を楽しみ、伝えるさまざまな形のプログラムをESD(持続可能な開発のための教育)の視点も込めて企画、実践しています。</li> </ul>
栗原 秀人	くりはら ひでと	下水道広報プラットフォーム	<p>「水の価値」は用水供給の他、街並み形成と品格、癒しと遊び、生態系保全、産業・観光などの地域産業等々多面的に及びます。一方で、災害、渇水、水質汚濁等々の水の「脅威」も私たちを取り巻いています。先人たちの「水の脅威」と闘いながら、「水の恵み」を得続けるための累々とした努力の積み重ねの上に、今日の私たちの暮らしや地域社会が育まれています。「水」は地域の宝ですが、ややもすれば豊かさや便利さの中で、そのことを忘れてしまい、水辺からも遠ざかってしまいがちです。何もしなくても「水の恵み」が得続けられると思っているかもしれません。改めて、地域の皆さんと一緒に、現地踏査、ワークショップ、パネルディスカッション等の参加型・協働型取り組みを行い、①地域ごとの『「水の脅威」と「水の恵み」の再確認』②先人達が残した有形無形の『水遺産探し＝地域の宝探し』③『水を上手に付き合うこれからの街づくりの姿、目標像の共有(水辺づくり、水に強い街づくり、水を活かしたまちづくり、循環型社会づくり等々)』④目標の実現を目指した公共・市民等のそれぞれの行動計画(加害者と被害者等の立場を踏まえた協働・参画、責任と役割分担等)等を明らかにし、地域総ぐるみ活動を展開していきます。中でも、「下水道の価値と機能」を活かした新しい水環境づくりや下水道と一体となった農林水産業の展開による地域づくりを取りまとめているかと思っています。</p>
小島 玉雄	こじま たまお	サン・アクト株式会社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の貴重樹木や天然記念物の診断や回復を通じた地域資源の保全、地域活性化。</li> <li>・サクラの樹勢回復による観光地の名所の保全、地域活性化。</li> <li>・サクラでは、各種メディアへ取り上げられ、数多くの観光客が訪れる事例を多数有する。</li> <li>・樹木の診断技術開発を産官学連携で行い、地域再生に繋がる仕組みを多数構築。</li> <li>・京都大学等、大学と連携したプロジェクトを実施し、地域に貢献する仕組みづくりの構築。</li> <li>・各種メディアや企業との連携により、地域の再生・活性化に繋がる仕組みづくりの構築。</li> <li>・サクラを活用した地域コミュニティの再生、活性化。</li> <li>・樹木再生だけでなく、対象地域の活性化・立ち上げ支援。</li> </ul>
崎田 裕子	さきた ゆうこ	ジャーナリスト・環境カウンセラー	<p>くらし・地域など足元から持続可能な社会の実現を目指して、NPO活動、個人での活動、行政委員として生活者視点での実践及び政策提言活動を実施。</p> <p>■「NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット」理事長として、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)「市民がつくる環境のまち“元気大賞”」表彰で全国の個性ある地域環境活動を応援。</li> <li>2)全国の地域環境活動キーマンを集め「環境まちづくり体験エコツアー」を実施。2011年は、前年入賞地・熊本県八代市で、市民相互交流(環境まちづくり・学び合い)を実施した。</li> <li>3)資源エネルギー庁主催の高レベル放射性廃棄物に関する地域ワークショップ「共に語ろう 電気のごみ」を、全国で実施。</li> </ol> <p>■「NPO法人新宿環境活動ネット」代表理事として、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)地域と学校の連携による「新宿の環境学習応援団・まちの先生見本市」開催。</li> <li>2)「新宿区立環境学習情報センター(エコギャラリー新宿)」の指定管理。</li> </ol>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
澤 克彦	さわ かつひこ	一般社団法人九州環境地域づくり	<p>協働取組支援            ○企業やNPOからよせられる企画プログラム等について、多様な主体を連携させながら取組を充実させる。例)企業による社員研修のコーディネート。企業取組についての意見交換の場づくり。            ○モデル事業等を活用した、協議会活動についての助言・支援活動            例)環境省協働取組推進事業採択団体への支援等。</p> <p>環境教育・ESD取組支援            ○環境教育のネットワークやプラットフォームと連携した、経験交流の場づくり。NPOと連携した環境保全・教育プログラムのコーディネート。            例)環境教育ミーティングの企画運営。企業が支援する環境保全プログラムのコーディネート。</p>
沢畑 亨	さわはた とおる	愛林館	<p>1:食            ・近所の素材を中心に加工食品(味噌、漬け物、ドレッシング、クッキーなど)を製造販売。            ・近所の素材を活かした「ふるさとレストラン」を月2回開店し、高齢者の活性化に貢献。            ・水俣の素材を味付けした本格タイカレー・インドカレーなどのレストランを土日祝日に営業。            ・そば/うどん/豆腐/こんにゃく/バウムクーヘンを2時間で作る体験教室。            ・家庭料理を持ち寄り、食べる「家庭料理大集合」を10回開催。集まった料理約700種はデータベースとしてまとめた。</p> <p>2:環境学習            ・ボランティアと植え、草刈り・つる切りを行った21haの「水源の森づくり」。            ・棚田25aで香り米を耕作。50aの草刈りを山羊を活用して行う。            ・会費をいただいた会員向けに大豆を育て、収穫を配当する「大豆耕作団」森を棚田保全を行い、食育のプロを「棚田食育士」を養成し、屋根のない博物館「村丸ごと生活博物館」でグリーンツーリズムを行う。            熊本県「緑化功労者」、棚田学会「棚田学会賞」、総務省「過疎地域自立活性化優良事例」総務大臣賞など受賞多数。</p>
島田 幸子	しまだ さちこ	一般社団法人 環境パートナーシップ会議	<p>関東地方環境パートナーシップオフィス(関東EPO)において、環境省の地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業及びESDの推進等に取組んでいる。            国連生物多様性の10年日本員会(UNDB-J)事務局、水俣病の経験を次世代に伝えるセミナーの企画運営等も行っている。</p>
新海 洋子	しんかい ようこ	特定非営利活動法人 ボランティアネイバーズ	<p>中部7県で、持続可能な地域づくり、社会形成のための、行政、事業者、NPO/NGO、学識者等多様な主体の協働による「環境」「まちづくり」「サステナビリティ」「教育」を主なテーマとしたコンサルティング、マッチング等協働事業支援を行っています。</p>
高橋 朝美	たかはし あさみ	一般社団法人環境パートナーシップ会議	<p>学生時代よりグリーンツーリズムに携わり、有機農業が盛んな地域での農協職員経験を経て、2014年より現職。主に関東圏内で、地域の環境課題解決に取り組む様々な主体(市民団体、自治体、企業)をつなぐコーディネーターを担っており、協働取組やESD人材育成に関わる業務など、地域での環境課題解決に向けた取り組みを支援している。</p>
竹内 よし子	たけうち よしこ	特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク	<p>①アフリカ・モザンビーク支援関連:松山市や小学校等と協働し、放置自転車をモザンビークに送り、銃を回収するプロジェクトを支援。放置自転車対策からまちづくり支援、学校教育支援から地域ぐるみの取組みへと発展。現在は、持続可能な社会づくりのための「学び」と「実践」の拠点として現地の公民館建設に取組む。本事業については、学校から地域へと広がり、企業・メディア・ミュージアムなども関わって国際・平和・環境・人権・多文化共生教育の一環を担っている。②東雲公園関連:公園の一部(未利用地)を活用し、NPO法人えひめ311と愛媛大学とともに「コミュニティファーム」として取組みが展開できるよう、町内会、松山市公園緑地課等関係者との調整を図り、小学校児童の生活科の授業で環境ESDモデル学習の実践を行った。③その他、各種学校との連携により多様な主体が地域のコミュニティづくりに関われるよう支援・助言している。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
太齋 彰浩	だざい あきひろ	南三陸町	民間の研究所以、海洋生物・生態学の研究者として藻場造成等の研究に従事。地域密着型の教育活動を志し、志津川町(現・南三陸町)へ移住。使われなくなった箱もの施設を再生し、住民も気付かない地域資源の掘り起こしと、体験学習プログラム開発により、学びをキーワードにした交流人口の増大に貢献。慶応義塾志木高等学校の研修プログラムやJSTの高校生サイエンスキャンプ受け入れなどで、年間2,500名ほどの教育利用を創出。地域の人材育成にも力を入れ、地元小中学校でのプログラム実施やエコツアーガイド等の養成を行う。 東日本大震災で町が壊滅的な被害を受けた後は、水産業の復興に取り組むとともに、持続可能な地域社会の姿を模索し、未利用資源を無駄なく使う「地域循環の仕組み」づくりに注力。
中坊 真	なかぼう まこと	NPO法人九州バイオマスフォーラム	NPO法人九州バイオマスフォーラムは、バイオマスの普及啓発事業、地域モデル事業としてバイオマスの利活用事業、コンサルティング・講師派遣・バイオマス製品の普及事業を行っています。特に草本系バイオマスの収集運搬・利活用技術に関しては、多くの情報・ノウハウを持っています。 バイオマスの普及啓発事業としては、テレビ熊本と連携してH19年度からバイオマスをテーマにした55分番組を制作・九州一円で放送しています。また、BDFカートやミニBDF精製プラントを使って、小学校でバイオマスをテーマにした環境教育を行っています。 2011-2013年度は、竹田市の厚生労働省によるパッケージ事業として雇用創出・人材育成の講師・コーディネートをし、木・竹・BDF・小水力をテーマに、月1回のペースでセミナーを開催し、地域資源を活用した事業化にむけたアドバイスと人材育成を行いました。 木質バイオマス利用については、熊本県内を中心に講演・アドバイスを行っています。
中村 哲雄	なかむら てつお	一般社団法人葛巻町畜産開発公社	平成24年1月22日農林水産省東北農政局主催の農山漁村の地域活性化シンポジウムのパネラー、地域活性化講演実績、北海道東川町、七飯町、宮城県北6町の議会議員、涌谷町、山形県山形市、最上町、東京目黒区めぐろシティーカレッジ。大学関係では、お茶の水女子大学生、岩手大学生8回講義。葛巻町に来町した沖縄県名護市会議員、北中城村議会議員、千葉県印旛郡議会議員、早稲田大学院生、明治大学生、日本大学生、東北学院大学生などに地域活性化について講演。平成25年は山形県最上町、宮城県涌谷町、岩手県岩泉町、奥州市、神奈川県川崎市、東京都稲城市などで地域活性化について講演。平成26年は東京都、金沢星陵大学などで講演、来日したフィリピンの農林省若手職員に地域開発と地域活性化について講演、現地指導など
中村 英雄	なかむら ひでお	特定非営利活動法人 新町川を守る会	自分たちの住む街が永久にきれいにならないとの危機感から、「自分たちの汚した川は自分たちの手で再生しよう」というテーマの元に、市民の手で人々から愛される美しい川の復活を目的に、市民活動団体を設立しました。平成2年に有志10名で「新町川を守る会」を設立し、月2回の船による河川清掃と、田宮川堤防の修景作業から取り掛かりました。その後は河川清掃はもちろんの事、河川環境啓発無料遊覧船の運航や水際ラブリバーイベント活動を通して市民に河川環境に関心を寄せてもらい、人々や魚を少しずつ川に呼び戻し、網状河川に囲まれた水都徳島の再生を目指して、現在も活動をすすめています。今では、毎月2回行っているボートでの川の清掃には、会のメンバーだけでなく、企業や学校、官庁からも参加してもらえるようになりました。徳島市新町川と助任川の他、田宮川・吉野川の清掃、ひょうたん島周遊船の運航、花植え、植樹活動など、年間を通して多彩なイベントを行っています。「河川協力団体」に日本で初めて認定される。
野村 みゆき	のむら みゆき	越前市エコビレッジ交流センター	様々な環境学習(里山スクール、環境入門スクール、里やまカフェなど)の企画運営の他、団体向けに里山の自然環境を活かした環境教育を行っている。今までにこども環境管理士 1級を始めとする様々な資格を取り、子どもから大人まで幅広い年齢層を相手に自然のおもしろさや不思議さ、命のつながりに気付くヒントを導いている。 平成15年より里地里山の保全再生、希少動植物の保全に取り組む。 そういったノウハウを地元の農地水環境向上事業や学校給食支援グループの事務局として活かし、安心安全な環境づくりや、有害鳥獣が田畑を荒らすことによって耕作意欲をなくしかけているお年寄りに、少しずつでも野菜づくりを楽しんで続けてもらっている。 また、平成16年より、地元の小学校と地元の振興会 環境部会との協働事業で、有機農法による「コウノトリが舞い降りる田んぼづくり」を手掛け、田植えから草取り稲刈りの他、生き物観察会も定期的に行い、田んぼは稲を育てるだけではなくたくさんの生きものを育む場所としても認知してもらっている。 収穫したもち米や藁を利用してしめ縄づくりや餅つき交流会、かきもち作りを企画運営し、田んぼの魅力、里山の大切さに気付いてもらおうと奮闘している。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
平田 裕之	ひらた ひろゆき	一般社団法人 環境パートナーシップ会議	<p>学生時代、川下りのガイドをしていたことがきっかけで、水を蓄える巨樹にみせられ、日本各地を歩いていくうちに、環境とそれをささえる地域の人々に関心を持つようになりました。地元でNPOを立ち上げ、コミュニティガーデンの運営を行いつつ、NPO運営のサポートをして、現在に至っています。</p> <p>今の仕事は、現場から離れ、現場がうまく回っていくための仕組みづくりや、政策、組織運営に関する支援を行っています。全国にある環境パートナーシップオフィス(EPO)と連携し、地域の政策作りの支援をしたり、人や事例を紹介しています。</p> <p>平成25年度から環境省がはじめた「地域活性化を担う協働取組推進事業」の制度設計ならびに全国事務局の運営にかかわり、地域における様々な組織が、課題解決のための共通認識を持ち、具体的な行動に移るためのサポートをしています。</p>
平野 彰秀	ひらの あきひで	特定非営利活動法人 地域再生機構	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農山村における地域づくりと自治再生の支援</li> <li>・地域住民主導による小水力発電の導入・木質バイオマスボイラー導入の支援</li> </ul>
藤井 絢子	ふじい あやこ	NPO法人 菜の花プロジェクトネットワーク	<p>資源循環の具体的な地域モデルとして、「菜の花プロジェクト」をスタートしてから16年になります。食とエネルギーの地産地消の地域自立をめざすわかりやすく参加しやすいしくみとして全国160ヶ所余で展開中です。毎年「全国菜の花サミット」と「菜の花学会・楽会」を開催し、パワーアップをはかっています。更に、超党派国会議員による「菜の花議員連盟」を通し、国への政策提言なども進めています。</p> <p>3. 11以後は、福島農地をめぐり、南相馬・須賀川を中心にナタネのタネまきを行い、更にBDFによるイルミネーション等を通し、再生エネルギー利用のアピールもしています。</p>
藤原 一夫	ふじわら かつお	藤原コンサルティング	<p>中小建設業の経営革新、再生、新分野進出等、建設業関連専門の経営コンサルタントとして経営指導等を業務とする傍ら、中小企業診断協会東京支部の建設業経営研究会の代表幹事として、建設業経営の情報交換・勉強会を主催しております。</p>
星野 智子	ほしの ともこ	一般社団法人 環境パートナーシップ会議	<p>環境省と国連大学の共同事業である「地球環境パートナーシッププラザ」の運営業務に関わり、環境教育、持続可能な地域づくり、生物多様性保全、NPO活動支援、ボランティア活動の普及、地球規模課題の普及啓発など、環境政策コミュニケーターとして、多様な主体との対話づくり、パートナーシップ構築を日々行っている。</p> <p>地域における青年・女性の役割に重視しており、活動サポートに注力してきた。1994年に青年環境団体が開発したイベントごみリサイクルのためのボランティアコーディネートは今では全国で見られるようになった。</p> <p>安全な食の普及とエコツーリズムに関心があり、毎年田んぼに通い、生産者と消費者の交流の場を作っている。また仕事とプライベートで多くの農山漁村・島を訪れ、ヨソ者視点で地元住民との交流、地元産品の研究を各地で行っている。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
前田 純二	まえだ じゅんじ	佐賀市上下水道局	<p>《これまでの取り組み》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成4年から微生物と米ぬかほかして、生ごみ堆肥化農業指導</li> <li>平成22年から佐賀市生ごみ堆肥化等促進事業をNPO法人循環型環境・農業の会が委託、今年で6年目になる。</li> <li>平成18年コスト削減と環境保全の取り組みとして、下水浄化センターの発生汚泥量削減と薬品削減を行う。</li> <li>平成19年海苔養殖の漁期に、下水浄化センターの処理水の栄養塩の供給を開始。今年の実績の売り上げも前年比115%とその成果が現れ、漁業者から「宝の水」と喜ばれている。</li> <li>平成21年循環型社会を目指し、浄化センターの下水汚泥の肥料化を開始。現在、年間1400トン農家や家庭菜園の人たちが利用している。「宝の肥料」と呼ばれ、2ヶ月半に1回、NPOで農業勉強会を開催、60人～80人参加。</li> <li>平成23年消化ガス発電を開始、所内電力の40%以上をまかなう。</li> <li>平成24年「循環のみち下水道、国土交通大臣賞」を受賞。</li> <li>平成25年「日本水大賞未来開拓賞」を受賞。</li> <li>味の素P菌体を下水道汚泥と混合、臭気の減量とアミノ酸の増量に成功、肥料の質が向上、市民の皆さんから喜ばれた。</li> <li>平成26年2月佐賀市とユージェナ社と共同研究を締結。下水道を利用してミドリムシの培養を行い、バイオジェット燃料を造って、佐賀空港から東京オリンピックを見に行こう！を合言葉に進めている。</li> <li>平成25年10月、世界初 佐賀市清掃工場からのCO2回収装置稼働。</li> <li>平成26年6月、佐賀市とアルビータ社が、藻類培養に活かすためのバイオマス活用協定締結。</li> <li>平成26年6月、佐賀市と味の素社が共同研究契約締結。「バイオマス産業都市さが」の実現を目指す。</li> <li>平成26年10月、CO2回収装置の横に植物工場を併設、CO2を入れてサラダ菜、グリーンリーフ、オーロラリーフなどを栽培している。1.5倍のスピードで成長している。</li> <li>平成26年11月、「バイオマス産業都市佐賀」が国の7府省庁の認定を受ける。</li> <li>平成27年3月、清掃工場内にアルビータ藻類培養実験プロジェクトがスタート。</li> <li>平成27年5月、下水道革新的技術実証事業【B-DASHプロジェクト】に採択された。佐賀市の事業は、バイオマス中のCO2分離・回収と微細藻類培養への利用技術を実証するもの。ユージェナ(ミドリムシ)の培養を行う。</li> </ul>
松原 裕樹	まつばら ひろき	特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター	<p>1982年広島生まれ。NPOや企業、渡米経験を経て、環境、教育、地域づくり、観光、防災などに関する事業の企画、運営、支援、コーディネートを行っている。</p> <p>近年は、参加体験型の学習塾「ブッククラブ」の運営や中国地方でのESD(持続可能な開発のための教育)の推進、協働による持続可能な地域づくりの支援など、現場から後方支援まで幅広く活動している。</p> <p>平成26年8月20日に発生した広島市豪雨災害では、広島市や広島市社会福祉協議会等と共に、広島市災害ボランティアセンター(現在:広島市復興連携本部)の運営に務めた。</p>
向井 哲朗	むかい てつろう	彦名地区チビッツ環境パトロール隊・NPO法人エコパートナーとっとり	<p>「子供も大人も身近な環境問題を五感で感じる事が課題解決へ繋がる近道」との発想から、1990年にこどもを中心とした「彦名地区チビッツ環境パトロール隊」を結成。テーマは、身近な大問題である「中海の水質浄化」。家庭から出る生活排水と中海の水質汚濁の勉強が始まり、水質汚濁の大きな原因となる廃天ぷら油の回収がスタートした。この活動は、現在、障がい者施設の皆さんとBDF製造にまで発展している。全国で初めての試みでもあった使用済み割り箸を回収し製紙工場と協働して紙再生への取組について問題提起。鳥取県米子市で地元のホテル温泉街に協力を呼び掛けて始まった本取組は、今では地域全体での取組から、更には全国区の事業にすることができた。身近な環境を体で知り、そこに存在する問題をきちんと理解し、自ら活動することを覚えれば、地球温暖化防止への道は近い。25年以上に渡って続けている割り箸・廃天ぷら油の回収・再資源化活動は、地球を愛することができる豊かな心を持った人間を育てている。廃油ローソク作り・牛乳パックから手づくり葉書きづくり・環境パトロール・廃バスタブ等を利活用した生活排水浄化方法・メダカ/ホタル観察会・水鳥観察会等体験型学習の指導、グラウンドワーク活動・環境を基軸にした協働の街づくりの継続実践をしている。</p>
吉田 総一郎	よしだ そういちろう	(株)吉田藤兵衛・アンド・カンパニー	再生可能燃料の合成と実践的な地域的活用